

農業農村整備事業の事後評価 - 三島中部地区を事例として -

After Estimation Of Rural Development - Case study of the Mishima central area -

速水 洋志、土屋 政幸、加藤 正之

HAYAMI Hiroyuki, TSUCHIYA Masayuki, KATO Masayuki

1. はじめに

静岡県三島市中部を流れる源兵衛川は、昭和35年頃までは富士山からの豊かな湧水に恵まれ、素晴らしい水辺環境を有していたが、上流地域の開発が進むにつれ地下水の減少が発生し、ホタルが飛び交いバイカモが咲き乱れる川は失われた。これを打開するため、平成2年度より水環境整備事業により整備を実施し、平成10年に完了した。本報告は完了後の生態系保全等の各種効果について、追跡調査を行った結果をまとめたものである。

2. 各種効果の環境評価

環境評価手法としては、仮想評価法(CVM)に代表される経済価値への換算が主体となっている。しかしながら、経済価値への換算がしにくいながらも、効果が感じ取れる項目もある。今回は簡易的に、次の5項目について評価判断を行った。

生態系保全効果

淡水域における代表的な生物として、トンボ類と淡水魚類について、工事完了以前と工事完了後の比較を行った結果を表1に示す。

(評価) 工事前あるいは工事期間中に比べ、現在の方が水辺植生等の環境が安定してきたことにより、淡水魚、トンボ等の動物相が豊富化する傾向が認められた。特にメダカやトウヨシノ

		工事实施中	工事完了後
トンボ類	種数	16	23
	比率	1.0	1.44
淡水魚類	種数	27	37
	比率	1.0	1.37

表-1 工事完了以前と完了後の生物確認

ボリ等の清流性の種が新たに確認された反面、親水整備の区間においては後退がみられた。

環境教育等効果

環境教育として実施されたものは、主につぎのものがある。

1) 「三島ゆうすい会」協力(学校授業)

- ・実施回数：平成11年度2回 / 平成12年度3回 / 平成13年度15回
- ・学習テーマ：「水循環のしくみ」、「水の大切さ」、「水辺の動植物」

2) 「三島グラウンドワーク」協力(学校休業日)

- ・実施回数：平成12年度11回 / 平成13年度17回
- ・学習内容：源兵衛川を中心とする水辺を教材に「ふじのくにゆうゆうクラブ」の開催

(評価) 学校教育、社会教育(住民団体主催)の両面において、川と湧水を教材にした体験学習を通じて子供たちに多大な好影響を与えている。水の冷たさへの驚き、生物に触れ

(株) 栄設計 (Sakae Sekkei Consultants Co.Ltd)

静岡県農業水産部 (Department of Agriculture and Fisheries)

(有) 地域環境プランナーズ (Environment Planners Co.Ltd)

キーワード：環境影響評価 生態系保全 環境教育 コミュニティ醸成 地域間交流

た感動、ゴミ問題への理解、水の有限性の自覚など、子供たちの感想文からは多様な学習効果が読みとれた。

コミュニティ醸成効果

平成3年～13年の川及び水に関するコミュニティ活動の状況を表-2に示す。

(評価) 源兵衛川の水辺再生によって、各住民がかったの「水の都三島」という自信と自覚を取り戻し、河川清掃や子供の環境教育にボランティアで参加する機会が増加している。また、その仲介役である2つの住民団体(三島ゆうすい会、グラウンドワーク三島)はこうしたコミュニティ醸成に対して大きな役割をになっている。

年度 (平成)	工事实施期間							工事完成後			
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
回数	8	24	34	40	36	38	59	53	71	82	82
平均回数	34							72			
比率	1.0							2.1			

表-2 コミュニティ活動の年度別回数

地域間交流効果

源兵衛川整備が全国的にモデル地区となり、各地の自治体や農業団体から先進地事例視察の目的で多くの人々が訪れている。地域間交流活動は主にNPO法人・グラウンドワーク三島によって行われており、その年度別回数を表-3に示す。

(評価) 源兵衛川の再生事業が全国のモデル事業として注目され、全国から視察者が来訪することで、住民意識が高まり、さらには川を媒体として外部との交流を持つきっかけとなっている。

年度 (平成)		工事实施期間							工事完了後			
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
回数	回数	2	6	7	29	32	54	53	31	116	81	110
	平均	26							85			
	比率	1.0							3.3			
人数	人数	-	-	-	210	217	628	866	1365	1570	1508	1977
	平均	480							1605			
	比率	1.0							3.3			

表 3 地域間交流活動の回数と人数

地域の宝である水を大切にすることの重要性が改めて認識された。

事業の波及効果

- ・まちづくりへの波及 三島市による「街中がせせらぎ事業」のスタート
- ・源兵衛川下流地域への波及 「中郷まちづくりカレッジ」の立ち上げ

(評価) 源兵衛川の水環境整備の多面的効果が刺激となり、三島市では平成13年度より「街中がせせらぎ事業」をスタートさせ、水辺、歴史・文化の拠点、商店街などを縦横に結び、地域資源を活かしたまちづくりへと発展している。

3.まとめ

これまでの検討の結果、源兵衛川整備による各種効果は多大なものであり、数値に表れる項目はもちろんのこと、目に見えない効果も極めて大きい。特に、地域住民の意識の変化はめざましく、その熱意は現在も持続している。今後の農業農村整備事業のモデルとなるべき評価が出来る。